

信仰とおしゃれ心を両立させて、ムスリム（イスラム教徒）女性の心をつかむ！

東南アジアで着実に経済力をつける、ムスリム（イスラム教徒）の中間所得層。そのファッションシーンに、今、新風が巻き起こっている。今年（2015年）7月、ユニクロが第一線のムスリム・デザイナーHana Tajima氏を起用して、ムスリム女性のためのカラフルでスタイリッシュなコレクションを発表したのだ。



ユニクロ 伊藤裕一さん

新ラインを販売するのは、マレーシア、インドネシア、シンガポール、タイの4カ国にあるユニクロ店舗。ヒジャブ（女性の頭部を覆う布）から、ブラウス、ワンピース、チュニック、パンツ、ケバヤと呼ばれる伝統衣装まで、幅広いアイテムを揃え、発売と同時に地元の女性達の間で大評判となった。

「マレーシアに赴任するまで、イスラム教は私にとっても、まったく縁遠い世界でした」今年9月まで、3年にわたって営業責任者を務めた伊藤裕一さんは、感慨深げにそう語る。

マレーシアは、国民の6割がマレー系で、東南アジアでもイスラム教の影響が強い国のひとつだ。ユニクロが進出した当初は中華系のお客さんが多く、1年を通して最高気温が30℃を超える暑い国だけに、キャミソールやショートパンツもよく売れた。ところが、マレー系人口の多い地域にオープンさせた新店舗では、様相が一変したという。

Hana Tajima コレクション発売初日には、開店前から多くのお客様が詰めかけた。

「ムスリム（イスラム教徒）の女性は、トップスもボトムスも長いものを着用します。露出度が高い服や、身体の線がはっきり分かる服は好まれません。ショートパンツなどは、もってのほか。キャミソールやタンクトップも、あまり売れませんでした」

「異変」はそれだけではなかった。人気の動物キャラクターがプリントされた服も、なかなか売れなかったのだ。



「動物の絵柄が不適當だったのです。日本では一般的なデザインが、こちらでは敬遠されてしまうことに気づきました」

動物の絵はNGだが、花柄やボーダー柄なら問題ない。長袖以外に七分袖までは許容範囲とする人もいる。伊藤さん達はムスリム客の動向から、地元市場で何が受け入れられ、何が求められているのかを探っていた。

「根本的には、彼女達も日本の女性と変わらないのです。おしゃれは大好きですし、我々の店舗でも、とても楽しそうに着られる服を選んでいきます」

宗教的な戒律や尊厳はしっかり守るけれど、同時にファッションも楽しみたい！そんなムスリムの女性達を主役に、現場の声から生まれたHana Tajimaコレクションは、東南アジアの女性達の心をはっきりつかむこととなった。